

## 第5回足立区基本構想審議会会議録

**日 時** 平成27年12月24日（木曜日） 午後1時30分から3時30分

**場 所** 足立区役所中央館8階特別会議室

**出席者** 足立区基本構想審議会委員（36名）

田中充副会長、村上祐介委員、石阪督規委員、田中隆一委員、有馬康二委員、須藤秀明委員、乾雅榮委員、吉田修一委員、小久保兼保委員、野辺陽子委員、河本孝美委員、小林雅行委員、田中忠穂委員、近藤勝委員、鈴木健文委員、石橋穠治委員、大塚和夫委員、北川千恵子委員、志自岐亜都子委員、長谷川浩一委員、早木美恵委員、益留有紀委員、鴨下稔委員、吉岡茂委員、渡辺ひであき委員、馬場信男委員、ただ太郎委員、たがた直昭委員、長井まさのり委員、岡安たかし委員、くぼた美幸委員、ぬかが和子委員、鈴木けんいち委員、おぐら修平委員、石川義夫委員、定野司委員

事務局 政策経営部長、政策経営課長、基本構想担当課長、経営戦略推進担当課長、(株)地域計画連合

**議題等** 1 基本構想 答申について（検討）

2 事務連絡

（1）次回の予定

平成28年2月4日（木） 午前10:00～12:00

区役所中央館8階特別会議室

**資 料** 【資料20】 足立区基本構想 答申案

足立区基本構想答申案についての意見書

## 1 基本構想 答申について（検討）

基本構想担当課長：お待たせしました。定刻になりましたので、ただいまより第5回足立区基本構想審議会を開催いたします。本日は年の瀬のお忙しいところご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。年内最後の審議会となります。なお、牛山会長が体調を崩されてご欠席のため、田中副会長に進行をお願いしたいと存じます。また、数名の委員からは若干遅れていらっしゃるのご連絡を受けておりますがよろしく願いいたします。それでは田中副会長に進行をお願いいたします。

田中充副会長：それでは皆さん、よろしくお願いいたします。今事務局からご紹介がありましたが、会長が少し体調が悪いということで、私が代わりに進行させていただきます。本日は答申案の審議ということで、今回私たちがいろいろ意見交換を重ねてきました基本方針の骨子が固まってきたということでございます。どうぞ本日も忌憚のないご意見をいただき、また活発に実りある審議を進めていただければと思います。それでは早速答申案について議論していきたいと思いますが、事務局から資料の確認をお願いします。

基本構想担当課長：それでは事務局からお手元の資料確認をさせていただきます。まずは本日の次第です。次に資料 20、足立区基本構想答申案です。次に資料番号はありませんが、足立区基本構想答申案についての意見書と書かれたものです。その次からは委員の皆様のみになります。まず、参考として、前回審議会の会議録です。26 ページございます。次にお名前が印字された封筒で、中身は当審議会の報酬における平成 27 年の源泉徴収票です。氏名・住所・生年月日をご確認いただき、万一誤りがありましたらお知らせください。なお、本日分の報酬は 1 月に振り込みとなりますので、平成 28 年の源泉徴収票に含めることとなります。その平成 28 年の源泉徴収票に関してお知らせがございます。平成 28 年からは税務署提出の際にマイナンバーの記載が必要となるため、次の審議会には皆様からマイナンバー収集の手続きをさせていただきます。必要な手続き等については、1 月下旬の資料送付に併せてご案内いたします。ご協力をお願いいたします。

ここで、前回ご質問がございました、足立区ホームページのアクセス数についてご報告します。基本構想・基本計画関係の最初に表示されるページに、約 3 週間で 1,067 件のアクセスがございました。

田中充副会長：よろしいでしょうか。それでは早速次第に入ってまいります。次第第 1、基本構想答申についての検討でございます。資料 20 がその該当のもので

して、まずこれをどうしましょうか。ちょっと長いので、章ごとに区切ってご意見を皆さんからいただきたいと思います。説明は全体を一通り説明してからといたしましょうか。それでは事務局からまず1回説明をしていただいた後、意見交換を順次行ってまいります。

基本構想担当課長：資料 20、足立区基本構想答申案をご覧ください。これは新たな基本構想はこのように策定されたいと区長に対して提出する答申案です。これまでの審議内容などを元に、前回審議会での答申骨子における検討結果も踏まえて作成しました。事前にお送りした資料の他、委員名簿等を付け加えた部分もございます。この後内容についてご検討をいただきますが、もしも本日終了後に追加意見等が発生しましたら、来年1月12日、火曜日までに事務局にお寄せいただきたいと思います。ファックスや郵送の場合は、お手元の足立区基本構想答申案についての意見書にて。Eメールの場合はこの書式によらずお送りください。1月12日までによりしくお願いいたします。本日の検討結果や意見書の内容等を調整の上、次回、2月4日の審議会で修正版をお示しいたします。そこで改めて確認等をお願いすることになります。

それではまず表紙の裏が答申書です。末尾に本文のとおり答申しますとありますが、その本文がこれからご検討いただく内容となります。次のページが目次です。骨子案と変更になっている部分は、その場所に行きましてご説明したいと思えます。目次ではじめにがございします。その下に第1章、これまでの取組みの成果と現状。そして第2章、足立区が目指す姿、将来像。そして第3章、将来像の実現に向けた4つの視点、基本的方向性。そして第4章、活力にあふれ進化し続けるために。最後に資料となっております。

1 ページ目がはじめにです。簡単に説明をさせていただきます。1、基本構想の役割です。足立区が目指すべき将来像と進めていく上での基本的な考え方や方向性を示します。次の2、基本構想の策定にあたってです。黒い丸の一つ目が、長期的な足立区の未来を描く基本構想ということで、これまでの30年間で大きく変化してきました。また今後30年間も大きな変化が予想されます。そういったことから、今後30年間を見据えた基本構想の策定が必要と記載しております。丸の二つ目が、区民参画による基本構想の検討です。中・高生を始め子育て世帯など、無作為抽出等により多数のご意見をいただきました。こういったご意見・ご提案は、基本構想について審議する際の基礎資料として活用しました。次の2 ページが第1章です。これまでの取組みの成果と現状です。骨子案の段階では序章に含めていましたが、現在の基本構想をしっかりと評価した上で策定に取り掛かることが重要というご意見を踏まえ、先ほど示したはじめにの位置付けのような内容とは分割して、単独の章にしました。基本構想を実現するための基本計画や重点プロジェクトについて。そして社会情勢の変化も含め、検討素材や

行政評価の資料を元にして記述しました。

まず1、これまでの基本構想の振り返りです。(1)時代とともに変化してきた基本構想は、過去、現在も含めてですが、基本構想について簡単に説明しております。

(2)前基本構想に基づく取組みと成果は、協働で築く力強い足立区の実現という基本理念と、三つの将来像について述べております。丸の一つ目、1、魅力と個性のある美しい生活都市は、つくばエクスプレスや日暮里・舎人ライナーの開業、コミュニティバスの路線増設、土地区画整理事業や密集市街地での細街路の拡幅整備や木造老朽住宅の耐震化などをやってまいりました。3ページ目、丸の二つ目。2、自立し支えあい安心して暮らせる安全都市に向けた取組みと成果です。地域コミュニティの希薄化が進む中、町会・自治会を中心とした取組みを展開しております。また、環境負荷の少ない循環型社会についても取り組んでまいりました。丸の三つ目。3、人間力と文化力を育み活力あふれる文化都市についてです。東京芸術センターやシアター1010、東京藝術大学など複数の大学の整備や大学の進出につながりました。また、区内での起業支援に取り組んでまいりました。

(3)重点プロジェクトの成果です。基本計画に掲げた施策の中で、特に重要かつ喫緊の課題を解決する重点プロジェクトについて述べさせていただきました。丸の一つ目。教育の質の向上による小学生の基礎学力の向上です。学力定着度が低いという課題がありましたので、いろいろ取組んだ結果、小学生の基礎学力の向上に大きな成果が挙げられました。丸の二つ目。区内5大学による大学連携の推進。区内に高等教育研究機関が少ない点も問題でございましたので、大学を誘致し、小・中学校とも連携をいたしました。また、大学間での連携も進めております。丸の三つ目。おいしい給食による子どもの食生活習慣の改善です。こちらは文字通りの取組みを行いまして、残菜率も改善いたしました。5ページにまいります。ビューティフル・ウィンドウズ運動による治安の改善です。地域の皆様や警視庁、区内4警察とも協力しまして、刑法犯認知件数は大幅に減少しました。世論調査でも治安について良いと感じる人の割合が、悪いと感じる人の割合を上回りました。次の丸。孤立ゼロプロジェクトによる地域での見守り体制の充実です。地域の中で孤立する高齢者が増えている問題に対応するため、高齢者の実態把握や絆のあんしん協力員による見守り体制の充実を図り成果も挙げております。次の丸。新たな魅力の創出に向けたエリアデザインです。大規模な区有地等の利活用について、区内外に広く発信し、民間活力の導入を推進しました。花畑エリアの大学教育施設の誘致や、江北エリアへの医療施設の移転などが進んでおります。次の丸。シティプロモーションによる発信力の向上です。足立区のイメージアップ戦略のため、様々な取組みをしてまいりましたが、世論調査における足立区を誇りに思う区民の割合が、平成22年度の29.8%から26年度に

は 49.4%まで上昇しました。次の 6 ページをご覧ください。区内経済の活性化についてです。足立ブランド企業の認定や、ニュービジネス支援事業による企業の成長、区内定着などを促進してまいりました。

続きまして 7 ページが 2、足立区を取り巻く社会情勢の変化についてです。

(1) 足立区を取り巻く厳しい社会情勢。丸の一つ目。人口減少・超高齢社会がさらに進展します。人口は平成 32 年の 68 万 3,000 人をピークに減少に転じるとされておりますが、超高齢社会が進展することも予測されます。そのため、労働力人口は減少し、一方で介護を必要とする高齢者などが急増しますと、扶助費の増加や税収の減少など、大きな負担がもたらされます。グラフの下が丸の二つ目。あらゆる面での多様化が進む一方で、地域への帰属意識が低下します。様々な面で価値観やライフスタイルの多様化が進んでいます。またコミュニティの希薄化も多く生じております。8 ページをお願いします。次の丸。貧困の連鎖による格差の拡大が懸念されます。家庭の経済的な格差から、子どもの教育格差が生じており、貧困の連鎖が大きな課題となっております。次の丸。防災・減災意識をより高める必要があります。足立区では地域防災計画を見直しておりますが、大地震に備え大震災の経験を風化させることがないように継続的に取り組む必要があります。次の丸。地球規模における環境問題が深刻化しています。様々な環境問題が地球規模で広がっております。足立区でも身近なところから環境対策に取り組む姿勢が求められます。次の丸。公共施設の一斉更新や再編などの見直しが求められています。公共施設の約 66%が築 30 年以上を経過しております。人口動向の変化により利用状況に差が見られるため、地域の実情に合わせた公共施設の再編も求められています。

9 ページをお願いいたします。(2) 足立区が迎えるチャンスです。一つ目の丸。2020 年に開催される東京オリンピック・パラリンピックです。東京都では経済効果の最大限の活用などを打ち出しておりまして、足立区では競技開催の予定はありませんが、区民や民間企業との連携による取組みが期待されます。丸の二つ目。さらなる交通利便性の向上。都心に近い立地と交通利便性を強みとし、若者・子育て世代の定着や企業誘致・創業支援など区内の活性化につなげていくことが期待されます。次の丸。エリアデザインの推進と大規模団地の建替えなどによる余剰地の活用です。現在は綾瀬・六町・竹の塚・西新井エリアの取組みを進めておりまして、また都営住宅やUR住宅などで建替え時期を迎えており、余剰地を活用していくことは新たな魅力の創出が期待されます。

それでは 10 ページをご覧ください。第 2 章。足立区が目指す姿・将来像です。

1、将来に向けて解決すべき課題のタイトルは、骨子案で背景としていたものをより明確に表したものです。中段のあたりから課題について触れております。今後迎える人口減少やさらに進展する超高齢社会により、地域を支える人の減少。要介護高齢者など支援を必要とする人の増加。地域コミュニティの希薄化。消費

行動の縮小などによる区内経済の停滞。税収減と扶助費増や公共施設の一斉更新による財政負担。これらによって区全体の活力が低下することが懸念されます。また、犯罪件数のさらなる減少。基礎学力の定着・向上。健康寿命の延伸。貧困の連鎖の解消などが残っており、これらの課題や変化を克服していくために、活力の維持や確保。そして、変化に柔軟に対応出来る進化が求められます。そのために今ある協働を発展させ、新たな仕組みの構築が不可欠と記載しております。11 ページの図については、成果や資源などについても例示させていただきました。

12 ページ。ここからは説明の流れを考慮しまして、根本となる考え方・基本理念を将来像の前に記述させていただきました。2、根本となる考え方。協働から協創へ、基本理念についてです。足立区では協働により主に行政から区民や地域、団体に呼び掛けや依頼を行い、協力・連携する形で実践をしてきました。これからの一人ひとりの個性や多様な価値観が尊重される時代では、人や地域と緩やかにつながり支え合うことで力を発揮出来る仕組み、協創の構築が必要です。協創とは、これまでの行政主導の協働に加え、それぞれの思いを持った区民・地域・事業者・団体などが主体的に考え行動し、必要に応じて互いに連携しながら、地域経済の解決に取り組んでいくという新たな考え方です。また、こういったことで生まれる力を協創力と呼びます。未来に向けて第一歩を踏み出す活力の源でもあり、また進化し続けるための必要なエネルギーでもあります。

続きまして 13 ページをご覧ください。目標とする足立区の将来像や、協創力でつくる活力にあふれ進化し続けるまち足立と、協創力の文言を加えています。新たな基本構想は、基本理念よりも将来像を前面に出しますが、基本理念に掲げた協創力が、将来像の実現にとって非常に重要であると考え、メッセージ性も狙ってここでも打ち出させていただきました。将来像の下にある活力とは、です。持続可能な社会を支えるための力でもあり、進化させていくためのエンジンでもあります。一人ひとりがいきいきと活動することで、まちに活力があふれ、つながり、足立区を動かし、進化へとつながります。その次の進化とは、です。変化に柔軟に対応し、課題を克服し、危機的状況を乗り越えていくこと。成長やつながり・発展などがあります。進化することによって新たな活力を呼び起こし、さらなる進化につながります。こういった活力と進化がずっと続くことを示すイメージが、めくっていただきまして 14 ページの図でございます。下の方からご覧いただきまして、丸や三角などがあります。これが多様な個や団体などを示しております。こういった多様性がそれぞれの思いを持って連携し行動していく。つながりを持つことで協創力を生み出します。協創力は活力をさらに生み出しまして、課題克服に向けて進化していきます。進化することがさらに活力へと向かい、また進化していき、足立区の将来像に向かっていくというイメージ図になっています。

続いて 15 ページ。第 3 章、将来像の実現に向けた 4 つの視点、基本的方向性です。いずれ基本計画という形で区の事業が構築されていく際の具体的な方針となります。将来像の実現に向けたまちづくりに求められる視点としては、まず、日々の暮らしでありまちづくりの担い手でもあるひと。そしてその人々が営む日々の暮らし。そしてその暮らしが展開される舞台となるまちです。さらに、ひと・暮らし・まちを支える行財政が必要となります。こういった視点で整理しました。なお、下のイメージ図は行財政はあくまでひと・暮らし・まちを支える土台ということで前回のものからこのような図に変えさせていただきました。

16 ページをご覧ください。視点 1、ひと。多様性を認め合い夢や希望に挑戦する人。足立区には様々な人々がくらしていて、誰にとっても優しく、社会の中で一人ひとりが夢や希望を持ち、実現に向かって歩むこと。さらに生涯にわたって健康でいきいきと活躍していく。そのような活力にあふれる人をみんなで育み支えていきます。視点 2、暮らし。人と地域がつながる安全・安心な暮らしです。子どもや支援が必要な人を見守り支え合う、そうしたつながりにより暮らしの安全・安心がもたらされます。地域を良くしたいという思いが芽生えまして、足立らしい近所付き合いや地縁によるつながりと、新たなコミュニティなどを育みながら、密接に結び付くことで安全・安心な暮らしが確立されていきます。

17 ページをご覧ください。視点 3、まち。真に豊かな生活を実現できる魅力あるまちです。足立区には生活の中で実感出来る良さがたくさんあり、都心にもアクセスしやすいことから、華美ではないまでも質の高い暮らしが出来るまちと言えます。誰にとっても優しく暮らしやすい。そして自分らしく過ごすことが出来る。こういったことでいつまでも住み続けたいと思えるまちが実現され、区内経済の活性化に向けた取組みを進めるとともに、資源を再発見・再認識し、足立区独自の魅力を作り出していきます。視点 4、行財政。様々な主体の活躍とまちの成長を支える行財政です。まちが活力にあふれ進化し続けるために、行財政が区民ニーズを的確に把握し、常に必要な施策を戦略的に展開していかなければなりません。必要な情報の提供や足立区の魅力を分かりやすく区内外に発信していくことが、限られた資源や人材を有効に活用しながら、持続可能な行財政運営を進めていく必要があります。

18 ページにまいりまして第 4 章です。活力にあふれ進化し続けるために、です。基本構想の内容を実現するための取組みを、区・行政に要望するものです。タイトルは将来像を元に設定いたしました。丸の一つ目。自立した人を育み多様性が受け入れられる地域社会の構築です。一人ひとりが受け入れられ尊重される地域社会を構築するために、自立して生活をし、たくましく生き抜く力。そして、多様性を受容し世界に開かれた視野を持つ人を育むための教育の充実を求めます。丸の二つ目。未来に向けた協創体制の構築です。協働に加え、区民自らが考え行動を起こし、互いに連携するため、行政は多方面にわたる区民主体の活

動を積極的に支援し、そういったことでコーディネート機能を最大限に発揮する協創体制を構築することが求められます。丸の三つ目。誰もが健康で活躍できる、バランスの良い人口構成の維持です。人口減少・超高齢社会においても、年少人口及び生産年齢人口の構成バランスに特段の配慮が必要です。ソフト・ハード両面から、若い世代が転入しやすいまちづくりを進め、若年層や子育て世代の定着・定住を図る。さらに健康づくりを推進し、高齢者がいくつになっても元気で活躍出来るようなまちの実現を求めます。最後の丸です。計画的かつ戦略的な行財政運営。今後はさらに厳しい財政状況が予想され、長期的な視点から効果的な取組みを見定め、計画的かつ戦略的な施策を展開することで、メリハリを付けて限られた資源や人材を有効に活用していくことを求めます。

続いて資料と書かれたページをご覧ください。関連資料として1の審議会委員名簿。2の審議会審議経過。3の基本構想審議会条例。4の基本構想審議会条例施行規則。5の基本構想審議会公開要綱。6は参考として各専門部会の検討シートを付けます。なお、3番目以降の条例などは、以前の審議会でも使用した資料に変更がございませんので、本日は省略させていただきました。資料と書かれたページをめくっていただくと、1番目の名簿。さらにめくっていただきますと、2番目の審議経過となります。

田中充副会長：ありがとうございました。少し長かったですが、全体像を示していただきました。ここからは意見交換・審議に入っていきたいと思います。先ほど事務局からありましたように、審議会の開催予定がこの後2月上旬にあります、さらに2月下旬で答申をしようということで、あと2回の審議が予定されております。そこで今日は出来るだけ、本日のこの骨子案というか、答申案についてご意見をいただき、さらにお気付きの点、あるいは出し切れなかった点、後ほど気が付いた点は別紙の用紙にて意見書としてぜひお寄せをいただいて、出来るだけ次の審議会の時には皆さんのご意見が反映されたものを出したいと思っております。2月の下旬の段階の答申案では、およそ最終案に近い形になり、そうさせていただきますと、さらに最後の2月下旬の答申がスムーズに進められると思います。どうぞそんな形でスケジュールの進行にもご協力をいただければありがたいと思います。

それでは審議の進め方ですが、大変長いものですので、少し区切っていきたいと思います。まずは表紙、それから表紙の裏の答申文案、さらには目次。この3枚についてまずご意見をいただきたいと思います。その後1章、2章、3章、そして4章以下という形で区切ってまいります。まずは3枚についていかがでしょうか。

鈴木けんいち委員：この表紙についての意見ということなので、例えばここに今



後決められるであろう答申のエキスというか、例えばタイトル的なイメージが分かるようなものを副題として載せることが出来れば区民にも分かりやすくなると思います。

それからもう一つ。目次に関してですが、前回の全体会でこの第4章に当たる場所については、第4章ではなく何と言いましたか。まとめとか、そういったことでアクセントを変えた役割があるので、そのようなタイトルにした方がよいのではないかと申し上げたのですが、改めてそういった点を感じますので申し上げます。

田中充副会長：1点目の副題ですが、私の印象では、牛山会長の名前が出た区長宛ての答申と書かれたそれが表紙になると思います。これが表紙に来て、この後ろに足立区基本構想答申というのが冊子の形で付くイメージになると思います。その時に足立区基本構想答申とした時に、この今資料20と書いた表紙に新たな足立区の基本構想についてという、そのような冊子の全体のタイトルが付くのだと思います。そうすると、そこにある種副題的な意味が込められると思います。

それから2点目。第4章の位置付けについては、そこでまたご意見をいただきたいと思いますが、おわりに、とか、まとめに、とか、そういったものがよいのではないかというご意見であったと思います。もしこのことについて他の委員からのご意見があればお願いします。

早木委員：前回その意見を言わせていただいたのですが、今回答申のところでここに結論を得ましたのでとありますので、結論的な部分がある方がよいのではないかと今回これを見て思いました。

田中充副会長：分かりました。つまり、今は結論というのが第4章にあった方がよいというご主旨ですか。

早木委員：章という形が私はしっくり来ないと前回も申し上げたのですが、全体的にまとめたというものがあってよいのではないかと思います。

田中充副会長：そこも第4章に行った時にもう一度ご意見を伺いたいと思います。おそらく答申と書いた文書、つまり表紙の裏側に入っているここで結論を得ましたのでというのは、この結論は冊子の形になったものを指しているのだと。つまり以下のような冊子の内容について得たという主旨だと思います。事務局に補足していただきましょうか。

基本構想担当課長：今表紙については基本構想についてで、サブタイトルで私が

受けた印象では、将来像かなと思いました。このあたりでご意見があればお聞かせいただきたいと思います。最後のまとめということでは、これも私の印象ではないのですが、第4章のタイトルを、終わりに、とか、まとめ、というふうにしてサブタイトルの活力にあふれと付けるといったことでよいのかどうか確認をしたいと思います。

田中充副会長：またそこに行きましたら、その扱いについて議論したいと思います。いずれにしてもこの表紙と区長宛ての答申書というのは、これは順番が逆になると思いますがどうでしょうか。

基本構想担当課長：そうです。印刷イメージを出してしまって申し訳ありません。実際には答申と書いた文書が単独でございまして、その後表紙・目次となり、2月25日にはそういった形になると思います。印刷した時はこのようになる可能性がございます。

田中充副会長：他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。それではまた後で全体の時に戻ってまいりたいと思います。それでは、はじめに、にまいりたいと思います。1ページですが、これについてはいかがでしょうか。

鈴木けんいち委員：このはじめにというところで、私としては初めてこの基本構想が30年というものだということで、これまでは10年から30年と言われてきたのですが、今後30年ということが初めて示されたかと思います。30年ではいけないとは言いませんが、少し今考えているのですが、このあたり皆さんに意見を出していただいた上で確認していけるとよいかなと思います。

田中充副会長：場合によっては、このはじめにの中で、この基本構想は30年、これから区のあり方、区政のあり方30年を見据えているということももう少し明記した方がよいという主旨でしょうか。

鈴木けんいち委員：そういうわけでもないです。

田中充副会長：他の委員はいかがでしょう。

北川委員：今までのお話だと、10年単位でお話をしていた気がしますが、でも今後30年を見据えてということ自体は問題ないと思います。事務的かどうか、そういった点では10年単位で見直すならそう書いた方がよいですし、特にそのような計画がないのであればこれはこれでよいと思います。

田中充副会長：他にいかがですか。それでは今の点、お二人からご意見が出ましたが、事務局はいかがでしょう。

基本構想担当課長：まずは30年というところは、こちらにご説明した通りですが、見直しをしないわけではございません。将来的に必要な時には、30年前でも見直しをすることは、その時の区民の皆様からのご意見等も踏まえて検討することはあると思います。現時点ではこれまで将来30年を見据えた議論等をいただいておりますので、このままでお願いしたいと提案しております。

政策経営部長：基本的には私どもは先ほど言いました行政計画で計画期間というものがあるのですが、これに関しては私ども今回は特に設けておりません。計画期間は何年かと言われたら、10年でも30年でもないということです。計画期間を持たないという形で考えてきております。ただその時に、では何年先の足立区を目指して考えたのかという言い方で言えば、30年先の足立区を臨んだ形で今回の基本構想をとという考え方でおります。ですから、見直しについても必要な時に見直していくということで、従来の行政計画のように12年ごとに見直すとか、16年ごとに見直すということではなく、30年先を目指した構想といったところで、計画期間は明確に規定していないということで事務局では考えております。

田中充副会長：続いて第1章にまいります。これまでの取組みの成果と現状になります。大きく分けるとこれまでの振り返り、それからさらに現時点で足立区が直面する様々な課題。あるいはこれからの展望ということが示されておりますがいかがでしょうか。

北川委員：今までどのような成果を挙げてきたかが書かれているのでそれはよいと思うのですが、逆にどのような課題が見えてきたのかということについても言及をするか、この10年で何が見えてきたかというのはちょっと書いてあった方がよい気がします。

鈴木けんいち委員：私も北川委員が指摘された点は感じています。それから、もう一つ例えば第1章の全体についてですが、7ページのところで課題ニーズの多様化という表題で、非正規雇用の増加などが書かれています。一つの事実として増加しているのはその通りですが、何となく非正規雇用の増加が良くないというか、改善を図るべき課題だと思います。このあたりの記述が、足立区を取り巻く社会情勢の記述なのでこれでよいのかもしれませんが、何かよそ事という

か、第三者的に見えます。このあたりを改善していくのだということが分かるようなものだとよりよいなと思いました。

田中充副会長：この間の足立区が挙げてきた成果と共に、今直面している課題、あるいは残されてきた課題、あるいはこれから向き合うであろう課題、このようなものについても丁寧に言及した方がよいというご指摘かと思います。他にいかがでしょうか。

長井委員：今の点で、ちょうど2章で将来に向けて解決すべき課題というのがあります。それがこれまでの成果と、また課題ということも含まれているのでしょうか。

田中充副会長：10 ページの課題と前の章との関係はどうなっているかというご質問かと思いますので事務局、お願いします。

基本構想担当課長：まず、第1章の方は北川委員からも課題にも言及ということですが、ここで書き述べております。第2章は再掲のようにはなりますが、将来像に向けてということで掲げさせていただいたところです。先ほど非正規雇用などのご意見もございましたが、そういったところを本日教えていただければ、次回お示し出来ると思います。

田中充副会長：10 ページのこの課題というのは、将来像を設定するためにどのような基本認識でいるのかと。つまり、区がどのような課題に直面しているかということのを改めて整理をしたと。ですから、1章を受けてここに折り込んだというのが事務局の考えだということです。少し書きぶりが足りないという点は、今事務局からありましたようにご指摘をいただきました部分は整理をしたいということでした。他にいかがでしょうか。

志自岐委員：足立区を取り巻く社会情勢の変化というのは、今後30年間を見据えての変化を考えて書かれていらっしゃると思います。例えば足立区が迎えるチャンスというのは、かなり近いここ10年とかそのあたりのものしか出てきていないように思えます。これは30年を見据えたチャンスと考えているのでしょうか。

基本構想担当課長：9ページのチャンスは短期的なものではございますが、こういったことを活かすことで将来的なさらに魅力の創造とか、そういったものにつながると思います。

経営戦略推進担当課長：9ページのチャンスにつきましては、一番最初のタイトルではオリンピックを見据えてとなっていますが、基本的には30年を見据えてこのようなチャンスがあるのではないかと。まだまだ成長するのではないかとということでまとめております。

田中充副会長：おそらく委員の印象とすると、割と短期的なチャンスを意識しているのではないかとということですが、事務局としてはこれから向き合うであろう30年を見通した時にこのようなチャンスもあるのだと。その中に短期的にはオリンピック等があるということかと思います。他にいかがでしょうか。

長谷川委員：第1章の章立ての1－1というのが、これまでの基本構想の振り返りということでまとめていただいています。それに対して2というのが足立区を取り巻く社会情勢の変化であると。これは非常に矛盾というか、ギャップがあるような気がしてしかたがないのですが。やはり自分の中で作った基本構想の振り返りというのと、それから自分の中での内的な情勢変化ということでの取組みがどう変わっていかなければいけないのかと。そのようなことがあって、外的には社会情勢の変化であると。このようなあたりで何か内的な情勢変化のことが書き足りないのか、それともどこかにちりばめられてしまっているのかと。そんな感じを受けます。この辺工夫をした方がよいと感じました。

田中充副会長：この点、事務局よろしいでしょうか。おそらく内外の変化を意識しているのだと思いますが、もう少し区内の変化・課題といったことも書いてはどうかということです。これは先ほどの課題にもう少しメリハリを付けた方がよいということと相通じるところがあるかと思います。他にいかがでしょうか。

大塚委員：3ページの2番、自立し支えあい安心して暮らせる、ということですが、その中の2段目のところに、町会・自治会加入率が減少しているとあります。さらにその下に町会・自治会が出てきますが、その関係が分かりません。大震災後、加入率が下げ止まったのか。下げ止まっていなくても前よりも下がり方が緩やかになっていると私は思っています。その理由はここに書いてあるように、地域の安全は地域で守るということで、行政に頼らないで地域でやらないとこれは間に合わないという意識が芽生えてきているのだと思いますので、そのところはちょっとつなげた方がよいと思います。

それから9ページで、さらなる交通利便性の向上とありますが、中身は現状の説明ですが、本文の方にも入れていただきたいと思います。

田中充副会長：2か所の表現について、あるいは考え方についてのご指摘をいただきました。事務局で整理をしてください。他にいかがでしょうか。

ぬかが委員：先ほど田中部会長も言われていた内的な要因と外的な要因という7ページ以降。足立区を取り巻く社会情勢の変化の部分ですが、私もずっと考えていたのですが、一番下であらゆる面での多様化が進む一方で、地域への帰属意識が低下します、この塊なのですが、前段の文章というのは、価値観やライフスタイルの多様性が進んでいると書いているのだけれども、例えば非正規雇用の増加というのは、必ずしも本人の価値観・ライフスタイルの問題ではない外的な部分で、もっと外からの要因が混在しているので、表現のしかたを工夫するとよいと思います。

また、その次の文章で、またということで、帰属意識の低下が顕著となっているという部分もそうだと思うのですが、改行しないでつないでしまうと、何か女性の社会進出とか晩婚・非婚などの結婚意識の変化とか、このようなことが帰属意識の低下だというように見えてしまう、それがもう一つの違和感の元だと思います。その辺文章の整理・工夫をすれば解決することだと思うのでよろしくお願いします。

田中充副会長：ぜひ表現のところは慎重に書いた方がよいと思います。いろいろな要因があってこのような事態を招いているということですので。先ほども鈴木委員から話がありましたが、単なる客観的な状況を述べるということもありますが、同時に区としてどのような課題を抱えているのかという認識が必要で、これから取り組むべき課題として考えているのだという認識が必要だということかと思います。表現の整理をお願いします。

それでは全体に戻って2章にまいります。ここが私たちが今回こうした審議会で見聞交換を重ねてきた一番のハイライトだと思います。足立区が目指す将来像ということで、その前提として将来に向けて解決すべき課題。そしてさらにはその後の基本理念。そして将来像という組み立てになっています。ご意見をいただけますでしょうか。

村上委員：非常に事務局の方で工夫して作っていただいている、協働から協創へという基本理念を打ち出したということは、この審議会の一つの成果だと思います。ただ、協創というところで、協創の協の字は、協力するといった意味合いが出ていると思うのですが、創の方は12ページでは創するという意味合いが文章の中に薄いと思います。14ページの図の中には、一人ひとりの思いや力が重なりあい、まちを創る力とあります。例えば12ページの中に協創のところで、まちを共に創る力が発揮出来るとか、協創の創のニュアンスを少し検討して入れ

ていただければと思いました。

田中充副会長：協創という新しいキーワードについての説明のご指摘でした。他にいかがでしょうか。

志自岐委員：協創力でつくる活力にあふれ進化し続けるまち足立というのは、これは決まってしまったのかなと思うところがあるのですが、分かりづらい感じがあります。協創の協の字がいくつか共という字を使っている自治体もあって、どちらがどちらなのかなという気がしています。それからこの字は今、結構ビジネス関係のネットワークの中で新しい価値観なり、新しい仕組みなりを作るという方の使われ方が多いのですが。会社社長が書いていたりする文章の中にあるのですが。そのような言葉を使うのかなということが気になります。進化とはとか、何々とはというのがいくつもあるのですが、その「とは」を読まないという意味が分からないというようなことで、これは区民向けではなく区長への答申なので、その辺のところはよいのかなと思いつつよく分からないのですが、区民向けと見ると非常に分かりづらい気がしています。

田中充副会長：まだ少し難しいというか、実感から離れているというご指摘だと思います。何かよい案があればと思うのですがいかがでしょうか。

鈴木けんいち委員：12 ページのところに協創とはということで、最後にその中で行政は多様な主体をつなげるコーディネーター役を果たしますということで、コーディネーターも必要なのでしょうけれども、結局行政はコーディネーター役なのかという感じもします。協創と言うと何か違和感があったのですが、こうやって説明されると区民や団体が主体的に考えることは大事なのですが、その結果こうして行政はコーディネーター役となると、行政の役割が薄れるというか失われる気がします。もう少し違う表現や考え方がよいと思います。

田中充副会長：私も少し気になっているところがありまして、今の点はまさに同感です。行政の役割は大切なので、もう少し書き込んだ方がよいのではないかとすることが1点です。

それから、第2パラグラフで協働について触れています。これは主に行政から区民・地域・団体に呼び掛けるという考え方であったのかというのをちょっと確認したいところであります。これは区のこれまでの基本理念や基本条例が、このような考え方で本当に整理されていたのかどうか。私はそこまで見ていないので分からないのですが、少し気になったところです。事務局、いかがでしょうか。

基本構想担当課長：考え方としては、当時は今で言う協創的な要素もあったとは思いますが、実態のところでは足立区がこうしていきましようということで、ご協力をお願いしますと。それに対して同じ方向で皆さん力を合わせてきたというのが現実ですし、それはそれで成果でありますので、今後も必要な部分ですので継続してやってまいります。地域の中でもまたそれぞれの思いでやっていく。それがいくつもあって、結果的に足立区の将来像に向かっていくという新たな仕組みも必要であるということで記載しています。

田中充副会長：第2パラグラフのところですが、足立区では基本理念や基本条例に基づく協働の取組みを進めてきたとあります。区民と行政が同じ方向を目指し、主に行政から区民や地域・団体に呼び掛け、依頼を行い、協力・連携する形で実践されてきたとあります。これは中にはそのようなパターンもあったかもしれませんが、もう少しパートナーシップで対等な立場で行ってきた事例もあるでしょう。あるいは、場合によっては区民や団体が主導する形で取組まれてきた協働もあるのではないかと思います。このところの表現はもう少し丁寧にした方がよいと思いました。条例に基づいてこれまで行ってきた協働はこのようなものであったと一刀両断にしてもよいのかなという印象を持っています。少し考えてみてください。新しい協創の考え方については、先ほど委員からもご指摘がありましたのでどうぞご検討をお願いします。

ぬかが委員：この文章で行くと、自治基本条例の改正が必要になるような表現のしかたであって、避けた方がよいと思います。つまり、今までの条例に基づく協働を否定して協創に入るという流れは良くないと思います。否定していると誤解されるようなものは良くないというのが1点です。

ここの協創の構築が必要だという文章はとてもよいと思っっているのですが、先ほどの志自岐委員の意見にも感じるころがありまして、前回私も申し上げたビジネス用語として使われている協創はこのような意味では必ずしもない感じがしています。そうすると、足立独自の協創という考えなのかなと。そうするとやはり分かりづらいだろうと。一般的にビジネス用語で使われている協創と、足立区が言っている協創という意味では若干ずれがあると思っています。その点では、この期に及んでということかもしれませんが、本当に協創力という言葉でよいのかというのは、私はやはり疑問を持っています。これは意見として申し上げておきたいと思います。

志自岐委員：最後のところで、まちを良くしたいと思う人ということで始まるのですが、区民一人ひとりやそれぞれの自治体が、まちを良くしたいために何か動いているのかというと必ずしもそうではなくて、一人ひとは自分の暮らしの



幸福の追求であったり、あるいは人を助けたいだったり、例えば障がい者の団体であれば自分たちの何をどうしたいとか、そのようなものが重なり合って、結果としてまちを良くしていく力になると私は思っています。なので、まちを良くしたい人って足立区に何人いるのだろうと一瞬考えてしまいました。もちろんそのような人もいるとは思いますが、そうでない表現にさせていただいた方が、もっと一人ひとりの力、多様な動きの中からエネルギーとしてよいものを出していくというイメージになると思いました。

田中充副会長：大事なご指摘だと思います。他にいかがですか。

ただ委員：今のご指摘は私もそう思っていました。活力とはというところで、お互いに認め合いとか、それぞれのまちに活力があふれていくとか、これは当たり前のことだと思います。では、区や行政は、そういうふうに区民の方に活力、いきいきと活動出来るようにどのような取り組みをしていくのかというところが一番重要だと思います。何かいきいきとお互いに認め合いながらやっていけば活力が生まれると書いていますが、そうしていく仕組みづくりのお手伝いというか、そのようなところを明確に示していくことが基本構想の重要なところだと思いますがいかがでしょうか。

田中充副会長：ご指摘の通り、区政、あるいは区の役割の仕組みを作ったり、一人ひとりの区民の活動の支えとか、そういったことだと思います。書きぶりがもう少し丁寧にした方がよいのではないかとのご指摘かと思います。他にいかがでしょうか。

田中隆一委員：今の点にまさに関係しているところなのですが、前回の議論で協創という言葉は新しい考え方なので、これをきちんと定義しないと分かりにくいというお話がありました。定義という観点から見ると、4段落目のところに協創とはというので始まっているところがあります。これはまさに定義付ける文章になっています。実はその次の段落のところでも、またもう一度定義のような文章が続いています。おそらく協創の定義としては4段落目で書いてあることであると思います。5段落目のまちを良くしたいと思う人と人、人と地域、地域と地域がつながることにより良いまちを作り上げようとするということのは、協創の一つの例になっているのだと思います。二つ列記すると、どちらが定義なのかというのが分かりにくくなる印象を受けました。そういった協創の例としてまちを良くしたいと思う人をつなげるというのは、一つの例だという書き方をさせていただけると分かりやすいと思いました。

田中充副会長：ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

長谷川委員：14 ページに図がありますが、これと 12 ページからの文章を読んで非常に違和感を感じます。この図を見ますと、多分一番下のところが、人とかまちとかくらしというイメージであって、それがこの協創という定義から見ますと、私の言葉で言えばそれが双方向に、行政だけではなくて区民側も主体的に行動するという双方向になり始めていると。もしくは、多重のネットワークに図で見るとつながっていくと、このようなイメージを表しているのではないかと読むのですが、縦方向に雲があって、足立区の将来像という定義が書いてあると。で、真ん中の大きな矢印に協創力と書いてあって、これが多分先ほどから皆さん議論をされているのですが、私自身、この縦方向の矢印、そのスパイラルに広がっていくものがあって、その間に活力・進化と書かれているのですが、図としても文章を補足する図としては読めません。非常に何か難しい謎かけの絵のような気がします。その辺を少し整理していただいてというのが一つです。

それから、私は先ほども出ていましたが、協力の協ではなくて、共にというイメージになる方がより分かりやすいと思いました。今、役所の中にも多文化共生という係がありますが、ああいう共生と同じで、共に創るという方が分かりやすい気がします。

近藤委員：基本構想とは離れるかもしれませんが、12 ページのところで、足立区では以前は協働というのは区民と行政が同じ方向を目指して、主に行政から区民・地域・団体に呼び掛けを行って、協力・連携する形で実践されてきたと。実際に私ども商工会議所では様々な企業がありますが、区が発注するいろいろな事業・仕事。そういったものが確かに以前は割と区内の業者に優先的にやっていたような気がしたのですが、今はほとんどどこからでもOKであると。入札等すべてですね。それが何か区内の事業者を弱めている感じがして疑問点としてお話をさせていただきました。

田中充副会長：今お二方からありましたが、一つ大きな課題としては 14 ページの図というか、考え方の整理のところ、これが果たしてよい図であるのかというのが出ました。どうでしょうか。長谷川委員、特に違和感を感じるのはどのあたりでしょうか。

長谷川委員：ベースになるところの楕円形で、くらすまち・人のネットワークと、双方向というような、そこは非常によく理解が出来ます。もう少し記述の方をそうしていただいた方が絵として活きると思います。

縦方向のこの大きな矢印とスパイラル、その上の雲というあたりが何か違和

感が非常に私としてはする感じがします。

田中充副会長：事務局、よろしいでしょうか。これまでのことで補足はありませんか。特に協創という事務局を、協力の協を使うか、あるいは共を使うかというご指摘がありました。

早木委員：先ほどから協創の言葉と文字について問題が出ていますが、辞書で調べたところ協力の協と共、両方入れ換えて使うことが出来るようです。それで私、最初のキーワードの協働と聞いた時、共に同じの方だとばかり思っていました。共に同じという意味は、協力の協と字変換が出来るということなので、今回の協創という言葉もビジネス用語で少し引っ掛かるということでしたので、足立区独自というものでしたら、共に変えて新しい言葉として打ち出すことも一つあるかなと思いました。

石阪委員：よく行政用語で協働を使い分けることが結構あります。共に同じの方は男女共同参画とか。協働の方は市民協働といった形で使うのですが。両方とも一緒にという意味なのですが、微妙に違っています。共同の方は、例えば男と女が役割を明確化せずにみんなで一緒にというニュアンスが非常に強くなっています。ところが協働の方は、お互いの役割をきちんとまっとうしながら一緒にやっていくというニュアンスが強くなると言われています。例えば市民協働の場合は、行政は行政、市民は市民としての役割をまっとうしながら、一緒に最後はやっていこうということでよく使う傾向があります。行政はそのような使い分けをしているところが若干あります。

早木委員：ということは、共同の方が。

石阪委員：役割に関係なくみんなで一緒にというニュアンスが強くなります。

早木委員：でも共同というのは、あまりにも最近使い古されていて。何かオリジナリティという感じで協力の協がよいかなとは思います。

田中充副会長：協創の字を巡っていろいろな議論がありました。他の委員からいかがでしょうか。

石橋委員：私は基本的に今回のこの最終的な案を見せていただいて、よくまとまったなという感じがありました。確かに 14 ページの図というのは、前から気になっていたところがあります。文面をよく理解して、初めからずっと通した人に

は何となく分かるのだろうとは思いますが。飛ばし読みでパッと見た場合に、一般の区民には分かりにくい気がします。私がこの図で気になったのは、スパイラルの部分が矢印の後ろに隠れていますね。図の作り方ですが、手前にも回ってこないスパイラルというのが分かりません。グルグルと回るような形にしないと分からないのではないかなと思います。

また上で雲になってくるというのは、言われてみれば確かに少し変かなという気がします。

あとは協創の話ですが、ネットで調べてみても、厳密に協を使うか、共を使うか、かなりはっきり定義されているようですので、今の我々がこの延長上でやるのであれば、やはり協の方がよいような気がします。

あともう一点。細かいことですが、文字の修飾語がどれに掛かるのか分かりにくいというのがあります。11 ページの一番下。区民と行政がともに変化する状況に挑み、解決していく仕組みを構築とあります。このともにが、区民と行政がともに変化すると読めてしまうのではないのでしょうか。ともには状況に挑むの方に掛かるのだらうと思います。読み方によって紛らわしくないのかなという気がしました。

それから細かいことですが、10 ページの中段で、また依然として犯罪件数のさらなる減少、定着・向上のうんぬんの解消が区のボトルネック的課題として残されますと書いてありますが、依然として、が早く出てきているので、その後ろに犯罪件数のさらなる減少というのはおかしくて、出るとすれば最後に何々が依然としてボトルネック的課題として残されるとすべきだと思います。

田中充副会長：ありがとうございます。図のこともご指摘の通りかと思います。

吉田委員：先ほどから 14 ページの図のことが出ていますが、私はこれが全くない方がむしろすっきりすると思います。結局 14 ページがあることによって、ごちゃごちゃになったように一瞬思いました。せっかく苦労して書いていただいたようですが、むしろない方がすっきり流れていくような気がします。

田中充副会長：図のことにまた意見が出ました。

須藤委員：第 2 章の将来に向けての課題のところ、確かに超高齢社会は課題ではありますが、同時に少子化に対する対策も課題に入れておいた方がよいと思います。要するに安心して子どもが産めて育児が出来る、それも課題の一つに入れていただきたいと思います。

それから、先ほどから出ている 14 ページの図ですが、なぜ一番上を雲にしたのかなと。これはきっと太い矢印が上になっていますが、その雲が雨を降らせて、

それがまた活力・活性につながるのかなと思いました。これだと一方通行になってしまうのではないかと。この活力がまた区民の活力に相乗効果を与えるというような図を考えていただければと思いました。

田中充副会長：課題のところでは少子化対策というのは重要な指摘だと思います。

志自岐委員：11 ページで、将来に向けて解決すべき課題という四角がいっぱい書いてあるところで、区の特徴・資源というところの三つ目。都心に近い立地と交通利便性といったことが資源となっているのですが、他のものは全部納得出来るのですが、交通利便性って他区に比べて前より便利になったのは確かなのですが、資源とおおらかに言うほど便利になっているのかなというのは少し気になります。

経営戦略推進担当課長：区民サロンをやった時に、小学校・中学校・高校の子から足立区は交通の便がよいという言葉がかなり出ていまして、そこにギャップがあったものですから、逆に交通の便に関しては客観的に見た場合に、例えば日暮里に出るにも、東京駅に出るにも近いというようなことからこういった表現をさせていただいております。

定野委員：今の 11 ページの表なのですが、10 ページが課題がコンパクトになっているので、多分この表で課題をたくさん入れているのだと思います。ただ、区のボトルネック的課題については説明がありません。それから重点プロジェクトも 8 つあるのですけれども 4 つしか書かれていないと。それから区が直面するであろう状況として、第 1 章の社会情勢の変化を持ってきているのですが、例えば環境とか防災が入っていません。ですから、表を完結させておかないとつながりが悪いというのが一つです。他の章との関連性をきちんと作っておかなければいけないと思います。

それから、先ほどから第 1 章の 2 の社会情勢の変化というのが、外因のことを言っているのではないかと思います、やはり内因のことも必ず入っているので、例えば現状と課題といった形にしてしまった方がすっきりすると思います。

あとは協創については、コラボレーションとクリエーションということでは、私はこのままでよいという意見です。

田中充副会長：11 ページの図の充実というか、書きぶりの追加、修正はぜひお願いします。

小久保委員：先ほどの交通の利便性の話が出たのですが、9 ページにもありますね。交通の利便性は飛躍的に向上していますとあります。この向上しているという意味は、前の文章を読むと縦の線しか出ていません。エクスプレスとか舍人ライナーとか、このようなことではなく、私は前にも発言したことがあるのですが、これらの線路を結ぶ横の線ですね。環状に結ぶ横の線を作ってもらうことによって、飛躍的に交通の利便性が向上すると思って提案し、今でもそう思っています。20 年、30 年先のことでですから、いつ実現するか分かりませんが、このようなふうに交通の量、輸送効率を上げるのでしたら、やはり今の交通網の他に横に結んで、もっと利便性が上がるような方向にしていっていただきたいです。抽象的にも結構ですから、残してもらえるとよいなと思います。

田中充副会長：9 ページのさらなる交通の利便性のところに、もう少し課題的なことも入れてほしいということかと思います。特に横のつながりといったところでですね。

志自岐委員：さらなる交通利便性の向上の3行目。コミュニティバスの路線増設とあるのですが、コミュニティバスがこれからそんなにたくさん増えていくというような予測がとても付かない状況ですよね。私、一昨年ぐらいまでまちづくりの区民評価をやっていたのですが、コミュニティバスは今非常に頭打ちになっていて、これ以上増やすのが非常に難しい状況になっています。取りあえず今はお金を掛けずに、バス会社を説得して増やしていただくというような形を取っているようです。でも、ほとんど増えていない状況の中で、この一文を入れてもよいのかなというのが気になります。

田中充副会長：ここの箇所の意味合いが、前後を読むとまた違うのかなと思います。事務局から補足の説明をしてください。

経営戦略推進担当課長：志自岐委員が言われる通り、現状の道路網ではコミュニティバスの路線はなかなか増発するのは難しいという結果が出ているようですが、今後新たに整備される都市計画道路。これはかなりの道路がこれから出来ていく形になります。そうなりますと、バスの路線網自体が、その新しい道路によってかなり改善されて利便性が上がるのかなというところが容易に予想が出来るので、このような記載をさせていただきました。

田中充副会長：さて、第2章の将来像のところでかなりいろいろとご意見をいただきました。表現の問題、それから協創力をどうするかというキーワードの問題。さらに作図の問題。こういったことをご指摘いただいたかと思います。事務局の

方で整理が出来ていると思いますので、ぜひ対応をお願いしたいと思います。

10 ページのところで少子化対策であるとか、あるいは依然としたといった表現ですね。これを再検討ください。それから 11 ページでは、これは言うならば将来に向けて解決すべき諸課題。今言うなればこれが足立区が直面する、さらにこれから取組む課題として非常に重要な図なので、これはよく本文全体を併せて見ていただいて、課題の整理、それから表現の加筆、見直しをお願いします。

12 ページはいろいろ問題がありそうでして、委員からいろいろな意味での協働のあり方、協創の考え方、あるいは協創の定義と例示のしかた等々いただきました。あるいは協創の創、つまり創するという意味合いをもう少し強く出した方がよいのではないかというご指摘もいただいたかと思います。このあたりのことはぜひ受け止めていただいて、考え方を整理していただきたいと思います。続いて、協創の字をどうするのか。今の原案である協創と、それから共同購入のような共同という字ですね。そちらを使うという二つのアイディアが今出てきまして、それぞれに言い分、お考えがあらうかと思います。ここは少しいづねにした上で、併記してどちらがよいかをもう少し考えていきたいと思います。

さて、さらにこの 13 ページのところでは、このあたりで活力であるとか、進化というのが少し市民の目線から見ると分かりにくいのではないかという指摘もありました。ですので、そのあたりももう一度より分かりやすい表記のしかたに工夫をしていただければと思います。最後、14 ページの図ですね。これがいろいろと議論を呼んでいて、いらないというご意見もありましたが、しかし多くの方はもっとこれを工夫することでそれなりのメッセージ、あるいは分かりやすい概念が伝えられるのではないかという意味で、修正提案があったかと思います。ですので、そのような方向でもう一度工夫をしていただきたいと思います。いずれにしても区民・行政、あるいは事業者といった多様な主体がつながっている多様性とネットワーク。多重ネットワーク。これが進化・活力を行いながら、将来の足立区の新しい姿を実現していくということを意識したのですが、なかなかそれがうまく伝わるかどうかと。それからこの矢印であったり、あるいはスパイラルのらせんの上昇。そして最後に到達する雲の上。最近クラウドということがずいぶん言われていますので、IT ではクラウドというのが雲の上にあって、それにアクセスすることでいろいろ知恵を借りられるということがありますので、それがよいかどうかこれはレイアウトの問題もあると思いますので、工夫をしていただきたいと思います。

続いて第 3 章、第 4 章までお願いしたいと思います。第 3 章は将来の実現に向けての 4 つの視点。基本的方向性ということで、人・くらし・まち・行財政という 4 つのキーワードの下に展開をしております。方向性、視点の 1、2、3、4 となっています。それから、先ほど冒頭に議論がありましたが、18 ページの第 4 章。活力にあふれ進化し続けるためにというのが、これを何か、おわりに、と

いったふうにした方がよいのではないかという発言があったかと思います。15ページから18ページまでどうぞご意見をいただきたいと思います。

北川委員：第2章、第3章、第4章と割とあいまいというか、茫漠としたものが多くて、一定のポリシーを持ってももちろん作っているというのは分かるのですが、具体的な対策というのは前回の基本構想に比べて記述が少ないので、ではこのような方向で行くならどうしようかという視点が少し弱いように思いました。第3章、4章の存在意義というのを、私としては理解が十分に出来ないなというところがあります。第4章はただのまとめというか、結語という話はあるかもしれませんが、感覚の違いかもしれませんが、もう少し具体的に何を区ではやるのかとか、区としてどうするのかとか、そのように書いてあった方が理解をしやすいと思います。第2章と同じ程度にあいまいでは、何を具体的にすればよいかわからないというのが発言の主旨です。

田中充副会長：16ページ、17ページ、ひと・くらし・まち・行財政でしょうか。このあたりが方向性として出ているわけですが、もう少し具体的に行政、区民・事業者、このような主体の例えば役割を果たすべき課題のようなものまで言及してはどうかというご主旨かと思います。他にいかがでしょうか。

須藤委員：視点2の下から4行目で、足立らしい近所づきあいというのはどのようなものなのか見えてこなかったのですが。足立らしいという言葉が付けた意味合いについて教えていただきたいと思います。

基本構想担当課長：これはいろいろ練っていたところでは、下町づきあいなど専門部会でもありましたので、従来からあるお祭りの時の集まりとか、そういったことを少し表現がもっとよいものがあれば変える余地はあると思うのですが、これまであった足立区の中であったつきあいを考えました。お祭りづきあいというところでは、またネットワーク、SNSなどを使えば新たなコミュニティもなるといった議論もありましたので、併記したところがあります。

須藤委員：そうすると、地域に根ざした近所づきあいでよろしいのですね。了解しました。

田中充副会長：他にいかがでしょうか。

ぬかが委員：第4章、18ページですべての文章で求めていますね。これは誰が誰に求めているのかが私には分かりません。私たち答申する審議会委員が行政



に求めているのか、区民に求めているのか主語が見えませんがどうなのでしょう  
うか。

基本構想担当課長：審議会から区長にこうやってくださいという求めになります。  
す。

ぬかが委員：そうだとすると、これそのものが私たちが区長に求める文章だとい  
うことで考えますと、二つ目の未来に向けた協創体制の構築という文章で、行政  
がという文章ですが、いろいろ書いてあるけれども、最終的にコーディネート機  
能を最大限に発揮するということやっていくことを求めるのだと、それだけ  
に矮小化するのとは良くないと思っています。その前段には、多方面にわたる区民  
主体の活動を積極的に支援すると共にとか、それぞれ連携を密にすることでと  
かですね。要はこの中であってもコーディネート機能のことも含まれていると  
思います。当然積極的支援と言っても、実質的には圧倒的にはコーディネート機  
能だったりする場合も多いわけなのですが、そのような点ではここの表現は変  
えていただきたいと思います。あえてこれだけを強調するのであれば、これ以外  
の部分を書かなければいけなくなるとしています。

田中充副会長：この箇所は先ほどの第2章の協創というところに、コーディネート  
機能だけでよいのかという話が他の委員から出ておりました。そこは少し見  
直しをしていただければと思います。そこと連動して、そこでも行政のコーデ  
ィネート機能はもちろんこれ重要ですが、加えて行政が本来果たすべき役割だ  
とか、あるいは支援の機能などがありますので、そういったものにも言及するよ  
うにしていいただければと思います。他にいかがでしょうか。

馬場委員：18 ページの第4章で、誰もが健康に活躍できる、バランスの良い人  
口構成の維持とありますが、確かに今回の基本構想も超高齢社会になってきて、  
足立区の高齢化率が2位になったということを踏まえての様々な対策を考えよ  
うというのが一番の大きな課題なのかなとは思いますが。その2行目に、人口  
の構成バランスに特段の配慮が必要となりますと書いてあります。特段の配慮  
というか、これは配慮することによって、良い人口構成が出来るのかなと、そ  
のような簡単なものではないと思うのですが。その後に、要するに大学がどんど  
ん増えてきているから、若者層が増えるだろうと。その若者を定着・定住させれば、  
人口構成が良くなるという流れなのでしょうが、これはそういった簡単な配慮  
でなく、先ほど医師会の会長もおっしゃった通り、子育てに関してとか、もしく  
はもっと結婚しやすいようにするとか、具体的に人を増やすようなことが根本  
的な問題ではないかと思っています。ですから、これは簡単な配慮ではなくて、人口

構成のアンバランス解消の努力とか、そういった形のものが必要だと思います。行政としては、具体的にどのような対策でバランス良い人口構成を維持するのだという具体策が本当はたくさんあった方が分かりやすい感じがします。この辺の条件も工夫をいただければと思います。

田中充副会長：ちょっと私、追加で申し上げますと、この 18 ページの位置付けですね。先ほどからどのような位置付けで出ているのかと。誰が誰に求めるのかということですね。これは答申の最後の章ということで、おそらく当審議会として、区長にこのいうならば将来像、こういった将来像の実現に向けて、区はどのような取り組みをする必要があるのだという、ある種の将来の実現に向けた取り組みを求めるということだと思います。するとここでは、体制を作れ、協働体制・協創体制の構築であるとか、あるいは行財政を戦略的に行って、出来るだけ適宜適切に行政課題に取り組むことだということもあると思います。もっと言えば、例えばきちんとした情報公開を進めて、区民の協力・理解を求めていく取り組みだとか、あるいはどうでしょうか。今お話が出たような危機意識をもっと共有していくような情報の発信とか、いろいろあると思うのですね。

ここで今委員がご指摘になった人口の問題とか、あるいは上に書いてある多様性が受け入れられる地域社会の構築。この二つは将来像の中身に入っている印象を私は持っていて。つまり、これから目指していくべき将来の姿、あり方というものと、実はそのようなものは前章までで述べておいて、ここはむしろそうした前章までの望ましいやり方を実現するために区が行うべきまさに施策・取り組み、あるいは対処の仕方。このようなものを述べるとすると、少し整理をしておいた方がよいと思います。今の委員のご指摘も含めて、もう一度整理をいただければありがたいと思います。他にいかがでしょうか。

須藤委員：今、馬場委員がおっしゃったように、誰もが健康で活躍できる、バランスの良い人口構成の維持というところですが、これを見ていると、何か他区からの流入をどんどん受けましょうという感じで、自分たちのところの出産・育児も含めて、足立区生まれの区民を増やそうというのが一言も入っていないというのを感じました。ですから、若年層や子育ての世代の定着というのはもちろんそうですが、安心して出産や育児が出来る社会づくりというような文言も加えていただければよいなと思います。

岡安委員：16、17 ページの将来像の実現に向けた 4 つの視点。文章の最後が人のところでは育み支える、くらしでは安心・安全なくらしを確立する。まちではつくり出していきます。これは区の決意でやることなのか、区民に求めているのかと考えると、区がやることだと思うのですが。これが最後の結論の 4 章では、

区に答申の形で求めるとなっているのですが、表現としてはこの四つの視点はこのようなことが必要であるとか、重要であるとか、そのような表現になるのではないかと思います。

それともう一つ。先ほどからいろいろ議論になっている4章ですが。例えば一番最初の自立したうんぬんのところですね。年齢の違いとか障がいの有無、あるがままに受け入れる、地域社会の構築が求められるそのためにはと書いてあって、教育の充実としか言っていません。先ほどからご指摘があったコーディネートのことしかないとか、人口構成がそんなので大丈夫なのかとか、非常に表現的にシンプルになりすぎていると思います。もう少し重層かつ多層的な視点での表現が必要だと思います。

渡辺委員：2章でも申し上げたのですが、3章、4章についてここでご意見をということと、2章との関連性でお話をします。各部会でそれぞれが議論されたことがあまりにも反映されていない感覚があります。各部会の皆さんはどのような思いでこれを読まれたのかなと思いました。作文としてはとてもよいものですが。例えば16ページの視点1のところですが、まず子どもが産み育てやすい環境があって、そうしたことを地域が支えてというようなところから、時限的に子どもから高齢者に向かって、また性別や障がいうんぬんになっていくのかなという印象を受けています。そうした意味で、各世代ごとの記述についてあってよいのではないかと、子ども部会の一員として思いました。

また、資料に各専門部会の検討結果シートを載せるということですが、それでは部会は何のためにあったのかなという印象を持ちます。

田中充副会長：視点1の関係で、まとめの考え方を知りたいということですので、事務局から説明をしていただけますか。

基本構想担当課長：今ご指摘をいただいた部分も含めて、今一度これまでの審議内容等を踏まえて書き込んでいきたいと思います。資料編に付けるところは、もう少し教えていただければと思います。

渡辺委員：ですから、視点という中でまとめるのであれば、その中で各部会からのエキスがもう少し入り込んでいなければいけないと思います。

田中充副会長：今のご指摘は、資料の方には各部会の検討結果のシートを付けるのは結構けれども、その検討結果が本文にも反映されなければいけないということだと思いますので吟味して取り扱いをお願いしたいと思います。

それから、岡安委員からありましたが、支えていきますと言うよりは、むしろ

そういったことが必要だとか、あるいは重要だとか、こういった形で、つまりこの視点というのは将来像を実現するためにどのような視点で取組んだらよいのかという重要なポイントを指摘するところなので、支えていきますというよりは、むしろそういったものが重要なのできちんと取組んでくださいということ伝える書きぶりが大事だというご指摘だと思います。

志自岐委員：子ども分科会ということでやったのが、ひとになってしまっているということで、子どもについて一生懸命基本的に話していたことなので、ここが非常に違和感がありました。あともう一つ、30年先を考えると、おそらく好むと好まざるとに関わらず、外国の人が入ってくる、労働者として入ってくる可能性が非常に高いし、あるいはこちらから外に出ていく可能性も非常に高くなると思います。やはり足立区にも今も外国人の方が住んでいらっしゃいますが、そういった意味でかなり今の人口の感じから変わってくることも想定されるのではないかと思いますがいかがでしょうか。

田中充副会長：事務局、いかがでしょうか。

基本構想担当課長：子ども分科会のことについては、先ほど渡辺委員のご指摘の通り、こちらでも少し練らせていただきます。外国人のところは、少し薄まっているとは思いますが、人のところで多様な人、グローバルな視点というふうに、明らかに外国人とはまだ明記する時期なのか悩んだところではございます。もしはっきりということであれば、そのように用意しようと思います。

須藤委員：今の意見に賛成です。今、日本医師会でも取組んでいますし、日本病院協会でも今後の看護や介護に係る人材について、やはり外国からの人たちに頼らざるを得ない現状になってきておりますので、足立区でも同様なことが今後起きてくることが十分に考えられます。その辺も検討していただければと思います。

石橋委員：私は今回の構想案を読んで、現行の平成16年の構想と比べると、ずいぶんニュアンスが違うなという気がしています。それをどこで質問しようかと思ったのですが。現行の構想案というのは46ページあります。これは18ページしかありません。現行の構想案というのはかなり詳しく、むしろこれが基本構想なのかと思われるぐらい、重点施策レベルの話まで含まれているわけです。どちらかというと私自身は今回の方が、本来の基本構想になっていると思います。ただ、そのような意味で見た場合でもこれでよいのかと思うのは、一番初めに1ページのところで、基本構想の役割というのが出ていますが、これを読んで

みて、基本構想というのはそのために作られているのかと思って、私は分かりやすいなと思いました。ここで書かれている基本構想の役割というのは、区と区民が同じ共通理解に立って、共通の目標に向かって進むための指針であるという言い方になっています。基本構想の役割がそれでよいのかという話があります。私はこのような表現にしてくれて、これならこれで分かりやすいなと思ったのですが。区民と区が共に進む元になるものだという言い方をしている割には、最後の結論のところで、本当に区民と行政の指針になるようなものになっているのかなというので、少し漠然としすぎている気がしました。

もう一つ言わせていただくと、語句の件ですが、16 ページの視点1は、一番初めがひととひらがなで書いてあって、最後は夢や希望に挑戦する人と漢字であります。ここだけが漢字で、視点2はくらしでひらがな。3点目もまちはひらがなになっているのですが、このところはどうなのでしょう。それから、ひらがなと漢字の使い分けには、何をひらがなにしているのかというのがあります。具体的には17 ページの視点3で、誰にとってもやさしくくらしやすい安全なという言葉が書いてあるのですが、やさしくをひらがなで書かれると、何か分かりにくい気がします。そのあたりルールがあるのでしょうか。

鈴木けんいち委員：一つは議論の最後になって、一言で言うと足立区らしさと言うのでしょうか。ああ、足立区の基本構想だなと分かるような部分がどうもなくなっている気がします。何か工夫が出来ないかというのが一つです。もう一つは、この17 ページのところで真に豊かな生活を実現できるとあるのですが、具体的というか、豊かにはなりたくてもなれない中で、そこを後押ししていくような方向性みたいなものが必要であると思います。

有馬委員：先ほどから何回か指摘されていましたが、交通の利便性ですが、これは部会でも東西方向の利便性が良くないという話がありました。ですから、ここにある答申ですが、17 ページの視点3の3行目で、実感出来る良さがたくさんありますと。一方で交通利便性がとあります。これは比較的良い、としていただけるとよいなと思います。

田中充副会長：ちょうど時間がまいりました。さて、あとは資料の扱いもありますが、これは本文ではありませんが、もしご意見があれば別途お出しいただきたいと思います。意見書という形で、この内容についてご意見を後ほどでもお寄せいただきたいと思います。

さて、3章と4章は大変これも皆さんから多岐にわたってご意見をいただきまして、なかなか整理が事務局では大変かと思いますが、こうした多様なご意見というのは、新しいまちづくり、足立区の将来像、それからまちづくりの指針を

いかに作るかという大変重要な機会でもあります。ぜひこれは議論を尽くして、委員の皆さんに納得をいただくような形で整理をすることがとても大事だと思います。ですので、委員の皆様も細かなこと、具体的なことでもかまいませんので、意見書でお出してください。それから、次回2月の段階では、ある程度皆さんの意見・思いが反映された案をぜひ事務局に整理していただきたいと思います。そのようなつもりで事務局は頑張って整理を進めていただきたいと思います。

## 2 事務連絡

基本構想担当課長：いただきましたご意見等を元に、次回、修正版をご用意します。次回の開催は平成28年2月4日木曜日。午前10時から正午まで。場所は同じでございます。机の下などにお忘れ物のないようお気を付けいただきたいと思います。本日は誠にありがとうございました。なおお車でお越しの方は、出口付近の係員にお伝えください。よいお年をお迎えくださいませ。ありがとうございました。

午後3時30分 閉会